

もう一度、「夏休み」を見つけよう

「夏休み」という言葉は、学校に通う児童や生徒にとって何かワクワクする響きをもっています。自分だけの時間に、何かを見つけられそうな期待感があるからではないでしょうか。

今年のビッグ・サマーのこのページには、このようなワクワク感から夏休み中に行われる様々な行事を紹介しました。しかし、今年はいろいろな触れ合いの体験学習を紹介することができにくくなっています。昨年、私が久々に参加した「円通寺の暁天座禅」も中止の連絡がありました。新型コロナウイルスの感染は、まだ終息したとは言えないからです。

この状況は、特に人と人とのコミュニケーションの在り方を変えています。テレビ番組の中でさえ、人と人は距離をとり、アクリル板を隔てて会話しています。電子的な通信端末でのコミュニケーションができることが重視されて、生身の対話が減ってきています。社会の有り様が変わってしまった部分があります。

そんな中で、玉島東中の皆さんを何とか勇気づけ、元気づける言葉はないかと、名言集のようなものを見ていますと、歌人・与謝野晶子さんの次のような言葉が目に入りました。

—「若さ」の前に不可能も無ければ陰影も無い、それは一切を突破する力であり、
一切を明るくする太陽である。—

与謝野晶子さんは、波乱万丈の人生を愛と文学に生きた歌人です。「君死にたまふことなかれ」という反戦の詩も書いた女性です。日露戦争に従軍した弟に向けた戦争反対の詩です。富国強兵を掲げて、ロシアと戦争をしようかという明治時代において、戦争反対を声高に表現することは、強い世論の反発もあったそうです。

あゝをとるとよ、君を泣く、 君死にたまふことなかれ、
(ああ弟よ) (たまう)
末に生まれし君なれば 親のなさはまさりしも、

親は刃をにぎらせて 人を殺せとおしへしや、
(え)
人を殺して死ねよとて 二十四までをそだてしや。

そんな、与謝野晶子さんの「若さ」のもつ明るさや、新しい時代を切り開いていく突破力を表現した力強い言葉を読むと、私には皆さんの「若さ」がとてもうらやましく感じられます。

学校で何かを頑張るという場面が、失われがちな今回の臨時休校でしたが、誰にも奪うことのできない、皆さんの「若さ」の輝きで、目標や希望に光を当ててください。そして、「自分にしかできない何か」を見つける夏休みにしてください。それを見つけることは、きっとたくましく生きる力につながると思います。

そして、どうぞこれからも何かに挑戦して、自分の可能性を見つける学校の日々にしてください。

令和2年7月

校長 吉実隆充